

別紙様式2

令和５年度 県立玉造工業高等学校自己評価表

目指す 学校像	- 至誠・勤勉・協和の校訓を基本に、現代社会における工業の果たす役割を理解させ、適切な技能、技術を習得させる。 - すぐれた個性の伸長と豊かな人間性の育成に努める。 - 社会の発展に寄与する産業人の育成を図る。	
三つの方針		具体的目標
「三つの 方針」 (スケー ル・ポ リシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	○ 知識や技術、豊かな心と協調性を身につけた規律ある工業人の育成 ○ 意欲を持って学習や資格取得、学校生活に取り組み、地域社会で活躍できる工業人の育成
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	○ 地域社会で活躍できる工業人として必要となる基礎的な知識・技術を身につけさせる ○ 学習活動や特別活動、部活動を通して、地域社会で活躍できる工業人として必要な人間力や規範意識の育成 ○ 工業人としての知識・技術の向上を目指し、資格取得や競技会等へ積極的に取り組む ○ 卒業後の進路を考慮した計画的な進路指導の実現
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	○ 工業に興味を持ち、学業などに積極的に取り組み、ものづくりや資格取得に目的意識を持って取り組む意欲のある生徒 ○ あいさつができ、教員や友人の話を素直に聞くことができる生徒 ○ 規律の意義を理解し、互いの人権を尊重し、学校や社会のルールを守ることができる生徒 ○ 自分の進路実現を目指し、日々努力する生徒

昨 年 度 の 成 果 と 課 題	重点項目	重 点 目 標	達成状況
・ホームページの全体的な構成や掲載内容について精査し、必要に応じて見直しを行うなど、ホームページによる情報発信を高次化する。 ・ICTの研修を幅広い先生方にご参加いただき、ICT機器の利用に対しハードルを低くする。ICTの推進委員会の先生方のみが研修に参加して、他の先生が研修にあまり参加していなかったため。 ・教育課程については、来年度新たな取り組みとして学校設定科目を第1学年に組み込むことができた。しかしながら、総合的な探究の時間の代替や学校設定科目の運営についてはまだまだ審議が必要であると考え。来年度以降も各教科と連携を図り検討していきたい。 ・新型コロナの影響が続く中ではあるが、玉工通信や玉メール等の定期的な情報発信を含め本年度は広報活動を充実させることができた。来年度以降も充実を図る。 ・校内のネットワークの環境整備や、教室のWi-Fi環境、学習用端末などの整備については、係を中心に迅速に対応することができたが、まだまだ十分とは言えない部分が多くある。今後の計画をもとに、さらに教職員が利用しやすい環境を整えていきたい。 ・小学生低学年レベルの学習が定着していない。来年度から導入されるオンライン学習ソフトを朝学習や学校設定科目と連携し、卒業までには身につけさせられるよう計画的に取り組んでいきたい。 ・時代の変化に即した形になるよう努力を重ねているなかで、指導方針の共通理解を図りながら進路実現に向けた取り組みとなるよう学年集会等を積極的に活用し、地域の産業界から求められる人材となる工業人として身に付けておきたい安全意識・規範意識を学校の教育活動全体を通して、また保護者をはじめ地域の方々と連携・協力し今まで以上に向上させていきたい。 ・生徒の進路実現のためハローワークや外部関係機関と連携を図り、ガイダンスや進路講話、企業説明会などを実施することで、卒業後の進路に対する意識づけを行い、生徒が早期に進路目標を立てられるように支援する。またICTを活用した新しい求人システムへの完全移行のため、関係企業と協力してシステム機能の向上、効率化を目指し、より多くの情報を生徒に提供できるように努めつつ、各学年や担任との情報交換を密に行い組織的な進路指導を行う。 ・学級減に伴い清掃う区域の見直しを行う。 ・特別支援実施方法の確立 ・防災対応能力の育成 ・速やかな修繕ヶ所の把握と修理 ・コロナ禍で一時は活動が縮小されていたが、本年度より徐々に感染症対策を取りながらの活動が再開してきている。次年度はさらに活動の場が広がると予想されるので、保護者や地域の方と連携・協力をしながら社会人として必要な公共マナーを身に付けさせていきたい。 ・新型コロナウイルス感染防止対策しながら、奉仕活動や地域交流事業を行う。 ・学校HPやSNSを利用した広報活動をより積極的に行う。 ・部活動加入率と継続率を向上させる。	分かる授業の展開による基礎学力の向上と学習意欲を向上させるための授業改善を図る。	① 生徒の実態に応じ、学習内容を精選して基礎学力の向上を図る。	A
		② 各教科内で研修を充実させ、分かる授業の展開と教科間の連携を図る。	B
		③ 学習規律の向上を目指すとともに、習熟度別授業の充実を図る。	A
		④ 生徒の主体的に学ぶ意識を育むため、家庭学習の定着化を図る。	B
		⑤ 資格取得指導の充実を図る。	B
		⑥ 進学希望者へ適切な指導を計画実施する。	B
		⑦ 生徒による授業評価（授業満足度）における肯定的評価の向上を図る（A90％以上B80％以上C70％以上D60％以上E60％未満）	B
	基本的生活習慣の確立と規範意識の育成を図るとともに、交通安全教育の推進に努める。	⑧ 挨拶の励行と欠席・遅刻・早退の減少に努める。	A
		⑨ 髪型や服装等を正そうとする意識を身につけさせる。	B
		⑩ 社会人として必要な公共のマナーを身につけさせる。	A
		⑪ 保護者や関係機関との連携を密にとり、生徒の安全確保に努める。	A
		⑫ 交通安全教育を推進し、交通安全に対する意識の向上を図る。	A
		⑬ 全学年を通じ、計画的に進路に対する意識向上を図り、希望進路の実現を図る。	A
	望ましい勤労観や職業観の育成に努める。	⑭ 企業見学やインターンシップを実施、また外部講師による講話、キャリアパスポートの活用などキャリア教育の充実を図る。	A
		⑮ 企業及び大学等の情報を広く収集し、進路選択に役立たせる。	A
		⑯ 学校行事を通して生徒、保護者、地域との交流を図り、より充実感や達成感のあるものにする。	A
	学校行事の充実ならびに、部活動及び奉仕体験活動の活発化を図る。	⑰ 部活動加入率を高め、活性化を図る。	B
		⑱ 奉仕体験活動を充実させる。	A
		⑲ 生徒の委員会活動を活発にする。	A
		⑳ キャリアパスポートの活用により、自発的・自主的な学校行事への参加を促す。	A
		㉑ 近隣中学校並びに地域への広報活動を充実させる。	A
	中学校や地域と連携を図り、開かれた学校づくりに努める。	㉒ 小中学校への出前授業を行う。	B
		㉓ 行事を本校及び教育委員会のホームページ上で発信する。	B
		㉔ 生徒・保護者及び教職員の相互の信頼関係を深める。	A
		㉕ 個人情報保護、管理の徹底に努める。	B
		㉖ 心と体の健康に留意し、健全な生活を送れるような体制作りに努める。	A
	安全で衛生的な環境作りを目指し、心身ともに健やかに学校生活を送れるように努める。	㉗ 安全で衛生的な環境作りに努める。	A
		㉘ 不測の事態に備え、防災意識を高める。	B
		㉙ 校務のマニュアルの作成及び内容の明確化を図る。	B
		㉚ 校務の簡素化など見直しを行う。	A
	働き方改革の実現に向け、校務の改善、簡素化などの見直しに努める。	㉛ 会議の効率化を図る。	B
		㉜ 勤務時間に対する意識を高め、時間外勤務の短縮に努める。	B

評価項目		具 体 的 目 標	具 体 的 方 策		評 価		次年度（学期）への主な課題
教科指導（普通教科）	国語	適切に言葉を用いて、自分の意見を表現する知識を身につける。漢字や慣用句などの知識を獲得し、実際にそれらを用いて表現する。	文章を書いたり発表したりする体験を通して、言語的表現に関する知識を獲得する。	①	B	B	・ 授業時間の関係で発表に割く時間は限られるので、文章作成や他の言語活動により、既習事項や自分の考えをアウトプットする機会の一層の充実を図る。 ・ 映像資料の活用を継続して行う。ICTをより効果的に活用できるよう努める。 ・ 漢字ワークに取り組む習慣ができていますので、次年度も継続する。 小テストにおいても、自らの到達度を図るため、次年度も継続する。
			ICTを活用し、新聞や映像といった教科書に依らない資料を積極的に用いる。また、生徒の授業満足度B段階以上を目指す。	②⑦	B		
			毎時間漢字ワークに取り組む時間を設定し、定期的小テストを行う。	③	A		
	地歴・公民	基礎学力・学習意欲の向上を図るとともに、考える力・表現する力・メディアリテラシーを養う。社会の事象を主体的に理解し、公正・公平に判断する力を養う。	タブレットや電子黒板から映像資料を見せたり調べ学習をしたり、Google Formから小テストなどを実施し学習内容の理解を深めさせる。また、生徒の授業満足度B段階以上を目指す。	⑦	B	A	観点別評価で3観点での課題等の提出について、生徒の実態に対応するようにより实际的にしたい。授業内容は、生徒の身近のものや学習内容を生徒の生活と結び付けられるようにしたい。担当者どうして緊密な連絡や相談を密にしたい。そうすることで生徒たちの基礎学力の向上と同時に思考力を向上させたい。選択科目の倫理の展開では、生徒の関心を高められるようにしたい。
			指導内容・方法についての打ち合わせを定期的に行い、共通理解を図る。	②	A		
			生徒の身近にある問題を取り上げるなど、学習内容を生徒の生活や他教科との既習事項と結びつけることで、学習意欲の向上を図る。	①②	A		
	数学	基礎学力の向上を図り、習熟度別授業の充実にを図る。	複数教員の指導により生徒の理解度を把握し、板書を工夫し、基礎学力の向上を図る。	①③	A	B	・ 基礎学力向上を目的とした補助教材を作成し、数学科内で共有する。 ・ 小学・中学数学の学び直しをする機会を設ける。 ・ ICTを授業内で積極的に活用していく。
			ICT機器を活用した課題を定期的に配布し、家庭学習をする意欲や習慣を身に付けられるように努める。また、生徒の授業満足度B段階以上を目指す。	④⑦	B		
			課外授業を活用して、進学希望者の学力向上及び数学検定の取得に努める。	⑤⑥	B		
			指導内容・ICT活用方法についての打ち合わせを定期的に行い、共通理解を図る。	②	B		
	理科	身のまわりの事物・事象と関連を図りながら、基礎学力の定着と学習意欲の向上に努め、選択授業では学習の到達度に応じて発展的な内容の授業を行う。	学習の導入に視聴覚教材を効果的に活用し、生徒の興味・関心を高める。生徒による実験の機会を積極的に取り入れ、科学的な見方・考え方を涵養するとともに、学習意欲の向上を図る。	①	A	B	特に選択科目では、生徒による実験やレポート作成など生徒主体の学習活動を充実させることができた。また、問題演習の時間を確保し、ゆとりある授業展開で生徒の理解を促すことができた。担当者により、ICT機器の使用頻度に差が生じていることから、デジタル教科書の使用ならびにICT教材の共有に努める。
			問題演習や小テスト等の時間を確保し、学習内容を確実に定着させるとともに、ICT機器を効果的に活用し、生徒による授業評価においてB評価以上を目指す。	①④⑦	B		
			指導方針や指導内容等について定期的に話し合いを行い、担当者間で共通理解を図るとともに、指導力の向上に努める。	②	B		
	保健体育	課題設定を工夫し、基礎体力の向上を図る。服装や整列等の規律を徹底する。	生徒の実態に合わせた技能の到達目標を作成する。到達目標に向けた課題を自ら考え、ICT機器を利用し、スキルと基礎体力を高めるよう促す。また、生徒の授業満足度B段階以上を目指す。	①②⑦	B	B	体育館にもWi-Fiが設置されたので、より一層ICT機器を利用し、授業を展開していきたい。
			集団行動の授業の推進し、集団で学ぶ意義を理解させる。各種目における課題練習をし、試合の時間を設定する。	③⑨⑩	A		
	書道	書の良さや表現方法など創造的活動を通して理解する。	生徒の実態に合った題材を選択し、文字の美しさや作品を見る力の育成を図る。また、授業満足度B段階以上を目指す。	①⑦	B	B	幅広い題材、素材で創作意欲を高める。
	英語	学力向上に努め、対話から深く学ぼうとする態度を養う。	ワークブック、プリント等による授業を展開し、定期的点検することで生徒の実態把握に努め、学習内容の精選を図る。	①③④	A	B	・ 生徒自らが英語学習に取り組み、積極的に授業に臨むことを目指す。 ・ ALTとの授業、活動を通して異文化に親しめるよう努める。 ・ 電子辞書機能など、生徒の積極的なタブレット活用を促す工夫に取り組む。
			生徒が主体的に取り組めるように、電子黒板やタブレット等のICT機器を活用する授業の展開に努め、生徒の授業満足度B段階以上を目指す。	⑤⑥⑦	B		
			遊びの要素を取り入れながら、交流活動を通して異文化を学び、多文化共生社会で生きる態度を身につけさせる。	②⑩⑭	B		
	家庭	家庭生活に関する基礎的な知識・技能向上のための指導に努める。	問題意識を高めるためにプリントを作成し、毎回点検することで生徒の実態把握に努め、学習内容の定着を図る。	①	A	A	振り返りを行い理解度の把握を行うことで、授業改善を行う。 また、選択では保育実習や製作活動を行い、体験的な学習活動を充実する。 身近な課題を設定しICT機器を最大限に生かしながら、生徒自身が主体的に学習に取り組むことができるように努める。
			タブレットや電子黒板から映像資料を見せたり調べ学習などを行いGoogle Formから小テストなどを実施したりして、生徒が主体的に理解できるようにする。また、生徒の授業満足度B段階以上を目指す。	⑦	B		
			安全で衛生的な環境で実習を行うために、調理室や被服室の整備を心がけ、安全管理の指導を徹底する。	⑦	A		

※評価基準 A：十分達成できている、 B：達成できている、 C：概ね達成できている、 D：不十分である、 E：できていない

教科指導（専門教科・工業）	機械	生徒一人一人に合った基礎学力の向上、知識・技術・技能の指導を実践する。また教職員もそのためのスキルアップに日々努める。	実習内容の工夫および改善等（実用的な教材の開発）に継続的に取り組み、生徒が3年間で身につける能力（技術・技能等）をより明確にする。また教職員も資格取得等、自身のスキルアップに努める。	①②⑩	C	C	今年度は各種の資格取得や技能競技会等で昨年度の実績を下回る結果となってしまった。また教職員の資格取得についても技能検定等の取得者を増やすことができなかった。次年度においても引き続きこれらの取り組みを継続し、資格取得の指導ができる体制の強化を図るとともに、各自が実習や授業内容の教材研究に組み、3年間で生徒に身につけさせる生活習慣や技術・技能をより明確にしていこうとめざす。
			生徒に自己評価をさせることによって、生徒自身に新たな目標を持たせるとともに、一人一人の実態を把握することにより、個々の生徒に適した指導の実現を目指す。	③④	C		
			資格取得等の目標を持たせることにより、その達成への前向きな姿勢を定着させるとともに、学習意欲を高める。また、技能検定（旋盤、検査）やものづくりコンテスト等の担当者を増員し指導体制の充実強化を図る。さらにICT教育の効果的な授業での活用の実践にも努め、生徒の授業満足度B段階以上を目指す。	④⑤⑦	C		
	機械・エネルギー	基礎・基本的的な知識および技術の習得に向けて、わかる授業を展開する。社会人になるための心構えや実習時の安全教育の充実を図る。	少人数による実験・実習を行うことにより、基礎・基本の定着と技術の習得を目指す。また、生徒の授業満足度B段階以上を目指す。	①⑦	A	A	
			社会人になるためのあいさつや返事、基本的生活習慣などキャリア教育の充実を図る。	⑧⑨⑩	A		
			ICTを活用した授業を行い、工夫・創造の力をつける授業を展開する。	②⑦	A		
	電気	電気に関する基礎的・基本的な知識・技術の習得に向けて効率的な指導を図り、第二種電気工事士をはじめとした資格取得の指導の充実に努める。	電気に関する基礎的基本的な知識について教科内で意識を共有し、授業内容を精選し、基礎学力の向上を図る。また、ICTを活用し、指導体制の充実を図り、生徒による授業評価でB評価以上を目指す。	①⑦	A	A	ICT教材等の教材を共有し、ICT活用の充実を図る。 生徒の実態に応じた教育課程の検討を行う。 電気工事士の資格指導では、次年度から試験の回数が増えたり、受験時期が早まったりするので指導体制の充実を図る。
			基礎的基本的な知識・技術の習得が図れるような実習の指導体制の構築及び座学の内容を見直し、実習・座学間の連携を図る。	①②	B		
			第二種電気工事士及び第一種電気工事士の資格取得のための指導体制の充実を図る。また、資格取得を通して主体的に学ぶ意識の向上、家庭学習の定着を図る。	④⑤	A		
	情報技術	基礎学力の向上、知識・技術・技能の効率的指導、資格取得の効率的指導に努める。	教科内で教職員の共通理解のもと、授業内容を精選し、卒業までに身につけさせたい能力と基礎的学力の確実な定着を目指す。また、生徒の授業満足度B段階以上を目指す。	①②⑦	B	B	
教科内で教職員研修の実施や指導書の充実を図り，授業および資格指導の指導力向上を目指す。			①②	B			
技能士「電子機器組立」「電気機器組立」等，資格試験指導を充実させ，合格者の安定および確保を図る。			①②⑤	B			
共通科	地域との連携・協力を努める。	地域の小中学校等と連携を図り、地域振興に寄与する人材育成の循環を目指す。	②②	B	B	行方市内4つの小学校で放課後子供教室を実施、中学校への出前授業を1校で実施することができた。本年度実施できなかった中学校への出前授業など、地域との連携の充実に努め	
教務		基礎学力の向上を図る。	基礎学力の向上や資格取得に対する意欲を育むために、朝の学習の時間の確保に努める。	④⑤	B	B	・校内で研究授業および研究協議を行うことができたが、授業公開週間の取り組みについては検討が必要であると考えている。来年度以降も各教科と連携を図り検討していきたい。 ・教育課程については、学校設定科目ICT玉を時間割に組み込み、実施することができた。 ・朝学習および学校設定科目であるICT玉などで”すらすら”の活用を進めてきたが、学習意欲が低い本校生徒にとっては比較的取り組みが難しかった。すらすらの活用については今後考えていく必要がある。 ・地域の方対象の学校評価アンケートの回収率が良くなかった。 ・校内のネットワーク環境や学習用端末などの整備は、まだまだ十分とは言えない部分があるので、今後も計画をもとに、さらに教職員が利用しやすい環境を整えていきたい。 ・授業評価アンケートや学校評価アンケート（生徒）において、授業満足はB段階以上（3.5）であり、「先生方は教え方や教材を工夫し、熱心に指導している」の項目では、そう思う・ややそう思うが8割（88.8%）を超えている。このことから先生方の日々の授業改善やICTの積極的な活用等の取り組みが現れている結果であると考えられる。一方、生徒の自宅での学習時間や調査前の学習時間は減少傾向にあり、今後は生徒の学習意欲向上につながる授業の取り組みが必要であると考えている。
			数学、英語と連携を図り、習熟の程度に応じた指導体制の工夫と改善を図る。	②③	A		
		教育課程の編成と運営に努める。	各教科と連携を図り、教科の特性や生徒の実態に応じた新教育課程の検討を行う。	②	A	A	
			教育課程を適切に実施するために、授業時間の確保と調整を行う。	①	A		
		校内研修の充実を図る。	ICT、特にタブレットPCの授業活用ならびに教材開発などの研修を行い、教員の情報機器を活用した授業の推進に努める。	②⑦	A	A	
			校内の公開授業を行い、授業力の向上に努める。	②③	A		
			校内研修の充実を図るとともに、各種会議の効率化を図る。	③③	B		
		広報活動の充実を図る。	玉工通信の定期的な発行と学校パンフレットを充実させ小中学校へ配付する。また地域と連携した出前授業を行うなど、広報活動に努める。	②②	B	B	
			中学生や保護者、地域の方を対象とした学校公開を行い、開かれた学校づくりに努める。	①⑥②①	A		
			学校Webページを特活部と連携し内容を充実させ、学校の特色や魅力を伝える情報発信に努める。	②③	B		
			「玉メール」を活用し、生徒と保護者へ連絡や情報発信に努める。	②④	A		
		教育情報に関するネットワークの整理と管理に努める。	校内システムとデータを整理し、教職員が利用しやすい環境を整える。	②⑤②④	B	B	
			教育情報ネットワークの活用と、セキュリティーの強化及び個人情報の保護に努める。	②⑤	A		

※評価基準　A：十分達成できている，　B：達成できている，　　C：概ね達成できている，　　D：不十分である，　　E：できていない

生徒指導	基本的生活習慣の育成・確立を図る。	挨拶の励行や遅刻・早退・欠席の減少に努める。	⑧	A	A	・教職員による毎日の挨拶運動により、挨拶をする習慣ができた生徒が増えた。また、遅刻者数も減少している。一方で、原付バイク通学者の登校時間（始業１０分前登校）が守られていないことに課題がある。 ・各講話にて問題行動等の未然防止に努めた。学校内におけるスマホの使用ルールについて生徒の認知度は高いものの、許可無く他の生徒や教職員を撮影してSNSで共有するなど、使用時のモラルについて課題がある。 ・原付バイク等について車体整備や乗り方のルールを繰り返し指導した。これにより前期に見られた登下校中の軽微な事故は後期に入り減少した。次年度も繰り返し指導ができる機会や体制を整えることが必要である。	
		服装、頭髪に対する意識向上指導に努める。	⑨	B			
	規範意識の育成を図る。	社会人として必要なマナーやモラル習得に努め、規範意識の向上を図る。	⑩	B	A		
		保護者や関係機関との連携を図り、生徒の規範意識向上と安全確保を図る。	⑪	A			
	安全教育の推進に努める。	交通安全教育を推進し、安全への意識向上を図る。	⑫	A	A		
進路指導	早期進路目標の確立と望ましい勤労観、職業観の育成を目指す。	学年集会への参加やホームページ、進路通信の発行を通して、就職や進学に関する最新の進路情報を積極的に発信し、生徒に提供する。	⑬⑮	B	A	生徒が進路目標を早期に立てるための情報提供と、各学年と連携・協力した組織的な進路指導の実施。また県外求人電子化して管理するためのシステム作りおよび、令和５年度、延べ６００団体を超えている来校者に対応するため、進路業務の効率化、システムの改善を図る。	
		職業安定所職員等の外部講師を招き、進路講話を企画、実施する。	⑭	A			A
		進路に関する業務の学校側の窓口となり、関係機関と連絡を取り合い企業が企画する合同企業説明会や企業見学などの案内や調整を行う。	⑭	A			A
	組織的で統一した進路指導を行う。	各学年と定期的に情報交換を行い、連携を深めることで、組織的で統一した指導が行えるように努め、校務の改善や進路業務の効率化を図る。	⑬	B			A
		企業や学校、外部関係機関との連携において、ＩＣＴの積極的な活用を図り、より多くの情報を収集するとともに求人数の確保に努める。	⑮	A			
		進学希望者に必要な学習情報を提供するとともに、適切な支援を実施する。	⑮	A			
保健厚生	安全で衛生的な環境を作る。	月末に環境安全点検を確実に行之い、修繕箇所の把握と速やかな修繕に努める。	⑳	B	B	・学級減に伴い清掃区域の見直しを行う。 ・生徒指導部と協力して特別支援体制を確立する。 ・防災対応能力の育成 ・速やかな修繕箇所の把握と修理	
		清掃の徹底を図り、各種施設利用のマナーの定着・習慣化を確実にものとする。	㉑	A			
	健康の保持増進を図る。	健康診断や事後措置、講演会を計画的に実施し、自身の健康に対する意識向上に図る。	㉒	A	A		
	特別支援体制の確立と、教育相談を更に充実させる。	特別支援体制を確立し、支援を要する生徒に対して校外協力機関と連携し適切な支援に努める。	㉓	A	A		
	災害対応マニュアルの見直しと、防災意識を喚起する。	各種災害に備えた防災マニュアルの整備と見直しを行い、将来の地域防災の担い手として育成する。	㉔	B	B		
渉外	PTA活動を活発にする。	学校行事を通して生徒、保護者、地域との交流を図り、より充実感や達成感のあるものにする。	⑯	A	A	今年度はコロナ禍を終えて従来のPTA活動がある程度実施できた。またPTA・後援会総会等の行事についても、その実施形態を簡素化することもできた。マナーアップ運動や役員会の出席率もこれまでになく高く、それに伴い生徒達の生活マナー向上も見られた。チャーターバス及び図書館の運用業務についても円滑であった。 次年度以降は、PTA・後援会組織の更なる見直しと、業務の精選を進めて行く必要がある。	
		生徒・保護者及び教職員の相互の信頼関係を深める。	㉕	A			
	チャーターバスの安全運行の継続に努める。	保護者や関係機関との連携を密にとり、生徒の安全確保に努める。	⑪	A	A		
	生徒の校内外での安全確保に努める。	社会人として必要な公共のマナーを身につけさせる。	⑩	A	A		
図書館の利用を促進する。	魅力ある図書館作りを工夫する。 生徒向け図書を増やし、図書の貸し出し数増加を目指す。	⑲	B				
特別活動	学校行事を充実させる。	新型コロナウイルス感染が収束に向かっていいることから、行い方を工夫し様々な行事をコロナ禍以前の日常へ戻し実行する。また、学校行事への自発的・自主的な取組を促すため、キャリアパスポートを活用させる。	⑯⑳	A	A	B	新型コロナウイルス感染症の収束後、非日常下で行えなかったもの全ての学校行事をこれまでの日常に戻し、全校生徒参加型で生徒自身が自発的・自主的に取り組むことができた。 部活動加入率については、１年生の加入率が例年と比べて非常に少なかった。ただ、継続率については例年通りの推移となった。入部希望者獲得に向け、HPを活用し活動方針等を地域へ発信して理解を深めていきたい。 次年度の学校行事についても生徒会・委員会を中心に自発的・自主的な活動を促進していきたい。
	部活動を活性化させる。	新入生の部活動加入率を向上させ部活動の活性化を図る。また、定期的に部活動顧問会議を開催し、情報交換を図り部活動の継続率を上げる。	⑰	C	C		
	奉仕活動を充実させる。	ボランティア活動を積極的に奨励し、地域の各種ボランティア行事への積極的な参加を図る。	⑱	A	A		
	広報活動を充実させる。	学校HPを活用した学校行事や部活動の情報発信を積極的に行う。また、本校主催の地域交流事業を継続し、地域住民との積極的な交流を図る。	⑯㉑	B	B		
	生徒会活動を活発にする。	学校行事を生徒会役員や委員会が主体となって運営できるよう、委員会集会を定期的に開催し学校行事の円滑な運営を行えるようにする。	⑲	B	B		

学年	第1学年	基礎学力の向上を目指す。	教科間で連携を図り、生徒の実態把握に努める。その上で、タブレット端末を有効活用し、学習意欲の定着・向上、主体的な学習態度を育成する。	①②⑦	A	A	＜基礎学力の向上を目指す＞ ・個々の学習実態を把握することが大切。すららを活用し、基礎学力の定着を図れる課題を行う。今後も共通認識のもと継続していきたい。個々の学習実態を把握することが大切。 ・すららの取り組みの個人差が大きく、定着が図れない生徒が多い。課題設定の見直して、全員が取り組める状況をつくる。 ＜基本的生活習慣の確立と規範意識の育成を図る＞ ・コミュニケーション能力を育成するために、総探、LHRを活用し生徒が発言できる場所を準備する必要がある。 ・身なりやマナーについて、生徒とよくコミュニケーションをとり、挨拶や返事などの基本的な部分を育てていきたい。学年が明確にしておく、生徒により伝えやすい。社会生活上のルールを時折り伝えていく。 ＜進路目標の早期明確化を目指す＞ ・資格は何につながっているかを理解させていきたい。 ・自らの進路を見据えた学習習慣の確立と進路指導の徹底。 ・弱点を抱えた生徒も多く、指導の徹底も難しい場面がある。	
			積極的な授業への取り組みを促し、基礎・基本を定着させる。学習教材「すらら」や各教科からの課題等を課すことで家庭学習の定着を図る。	④	A			
			資格取得、課外授業、部活動加入等への積極的・継続的に参加する姿勢を育成する。	⑤⑬	B			
		基本的生活習慣の確立と規範意識の育成を図る。	家庭との連絡を密に取り、生活状況を把握し、欠席・遅刻・早退の防止に努める。	⑧⑪	B	B		
			頭髮服装検査、校内巡視を定期的に実施し、高校生らしい身なりやマナーを身につけさせ、規範意識を向上させる。	⑨	B			
			部活動や学校行事を通して、協調性や社会性の向上を図る。また、学校教育の中に情報教育を取り入れ、SNSでのトラブル防止、情報モラルの育成を図る。	⑩⑬⑭	B			
		進路目標の早期明確化を目指す。	面談等を通して進路に対する関心を高めるとともに、社会人として必要なマナーを向上させる。	⑩⑬	A	A		
			進路ガイダンス等を実施し、個々の適性を見出す機会を設ける。	⑬	A			
			進路に対する総合的な探求の時間の充実を図り、会社・学校見学を実施するなどキャリア教育の充実を図る。	⑭⑮	A			
	第2学年	基本的生活習慣の確立と規範意識の育成を図る	服装頭髪検査と校内巡視を通して身だしなみやマナーを身につけさせ規範意識の徹底を図る。	⑨	B	B		・全員の進路決定に努める。 ・SPI問題に積極的に取り組む。 ・スマートフォンによる無許可撮影、拡散の事案があったため、情報モラル教育の更なる理解を目指す。 ・バイク通学者が増え、大きな事故は出ていないが転倒している生徒がいるため、交通安全教育の充実を図る。 ・学年としてhandy進路指導室の説明のみで終わってしまった。活用の機会を設けて進路目標の早期明確化を目指す。
			学校教育の中に情報教育を取り入れ、SNSでのトラブル防止、情報モラルの育成を図る。	⑩⑮	B			
			家庭との連携を密にし、生活状況を把握し、遅刻・欠席・早退の減少に努める。	⑧⑪⑭⑮	A			
			部活動や学校行事を通して協調性や社会性の向上を図り、充実感や達成感が得られる学校生活とする。	⑩⑬	A			
		基礎学力の向上を図る	朝学習においてSPIの問題を取り入れるなど、就職試験に向けてより効果的な時間になるように工夫し基礎・基本の定着と学習の習慣化を図る。	④	B	B		
			授業においてICT機器を積極的に活用し、学ぶ意欲の向上と定着を図る。	⑦	A			
			資格取得の案内や補講、課外などから意欲的な資格取得を目指す生徒を育成する。	⑤	A			
			考查ごとにキャリアパスポートを活用し、振り返りの充実を図り、次回に向けての目標設定を行うことで学力向上につなげる。	①	B			
		進路目標の早期明確化及び意識の向上を図る	進路ガイダンスを実施し、上級学校や企業見学等への積極的な参加を呼びかけ、進路に対する関心を高めると共に、「handy進路指導室」の有効活用を図る。	⑬⑮	A	A		
			企業見学やインターンシップ等を実施することにより、体験的な進路指導を充実させると共に、社会人として必要なマナーの涵養を図る。	⑩⑬	A			
			進路指導部と連携して主体的に情報を収集できる環境を整えたと共に、キャリアパスポートの利用、面談等を行い個々にあったきめ細かい指導を心がける。	⑭	B			
		第3学年	基本的生活習慣の確立と規範意識の向上を図る	個別面談を積極的に行うこと、家庭との連絡を密に取ることで生徒の生活状況を把握し、必要な支援を行い、欠席・遅刻・早退の減少に努める。	⑧⑪	A	A	
				授業や学校行事等において、情報モラルについて考える機会を設定し意識を高めることで、SNSトラブルの防止、情報モラルの育成を図る。	⑩	A		
				定期的な服装頭髪検査と校内巡視、進路活動における面接指導等を通して身だしなみやマナーを身につけさせ規範意識の向上とコミュニケーション力の向上を図る。	⑨⑩	A		
			安全・安心な学習環境づくりと基礎学力の向上を図る	タブレットを用いた学習を進めることで、自ら学ぶ習慣を身につけさせるとともに、基礎・基本の定着を図る。	⑦	B	B	
				考查後に、次回の目標設定や学習計画の作成を行う等、振り返りを行うことでよりよい学習環境を整えたとともに、基礎学力の向上を図る。	①	B		
			希望進路の実現を目指す	進路ガイダンスや面接指導等の進路に対する対策を組織的・計画的に行うことで、進路意識の向上を図るとともに主体的に進路活動に取り組む姿勢を持たせる。	⑬⑭⑮	A	A	
進路指導部との連携と「handy進路指導室」を有効に活用することで、生徒一人一人に合ったきめ細かい進路指導と効率的な進路指導を目指す。	⑬			A				

※評価基準 A：十分達成できている， B：達成できている， C：概ね達成できている， D：不十分である， E：できていない